

(第3種郵便物認可)

熊本癒やすセラピー犬

被災者の心を癒やすため、熊本に派遣されるセラピー犬(伊丹市で)



NPO法人「日本レスキュー協会」(伊丹市)は26日、熊本地震の被災地にセラピー犬3頭を派遣する。動物に触れ合うことで心を癒やす「アニマルセラピー」の一環で、同協会が被災地に派遣するのは、2007年6月の石川県・能登半島地震以降、28回目。事務局長の岡武さん(40)は「地震発生から7か月が経過しても、心の傷は癒えてないと思う。犬と一緒に過ごして、少しでも和んでもらいたい」と話している。(福元淳也)

きょう3頭被災地へ

派遣するのは、ゴールデン・南阿蘇の両村の保育園やデンドウドルの「こころ」イサビビス施設、児童養護(雌5歳)と、雑種の「そら」(同)と「のぞみ」(雌2歳)。協会のメンバー4人と熊本県八代市と西原、

絵札をくわえて被災者と同じ

伊丹のNPO 保育園などでゲーム披露

【アニマルセラピー】国内では「動物との触れ合いによる心の癒やし」とされるが、海外では動物を使って病気を治療する「動物介在療法」を指す。NPO法人「日本アニマルセラピー協会」(神奈川県大和市)によると、国内で普及したのは約10年前から。不登校・引きこもりの子どもや認知症の高齢者らが動物と過ごすことで心が和らぎ、快活になるなどの傾向が報告されているという。

遊びをしたりするという。同協会のメンバー3人と災害救助犬4頭は、熊本地震発生翌日の4月15日から3日間、益城町と南阿蘇村で活動。倒壊した家屋を回って生存者の捜索をしたほか、26、27日には2人が同

町などの避難所で、ドッグフードや首輪、消臭剤などの物資を提供しながら、ペットを連れた被災者の悩みを聞くなどした。

同協会によると、災害発生から半年が過ぎると、生活は少しずつ落ち着きを取り戻すが、現実には引き戻される分、虚無感も生じやすいという。こうした時期にセラピードッグと触れ合うことが有効なことから、現地でボランティアを行うNPOに受け入れ先を紹介してもらおうなどして準備を進めてきた。

岡さんは「犬と一緒に遊ぶと人間同士の会話も弾み、笑顔も生まれる。セラピー犬派遣を継続し、熊本の皆さんが元気になるよう役立ちたい」としている。

「年一ツ実た一緒ッ
語一セト発ッ

トワし、
トワし、

ン

「きょう3頭被災地へ」

「整列する警官を撮る一日」

「内では神戸市も同日から実」